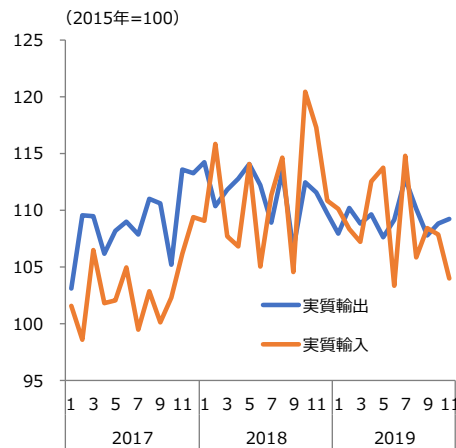


## 日本

貿易統計（2019年11月）  
半導体に下げ止まり感も輸出は低調政策・経済研究センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

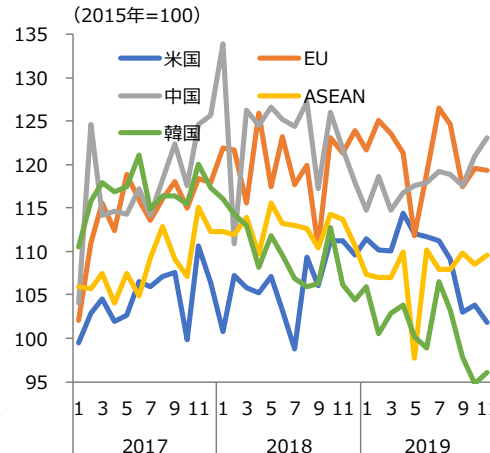
## 1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出：国別

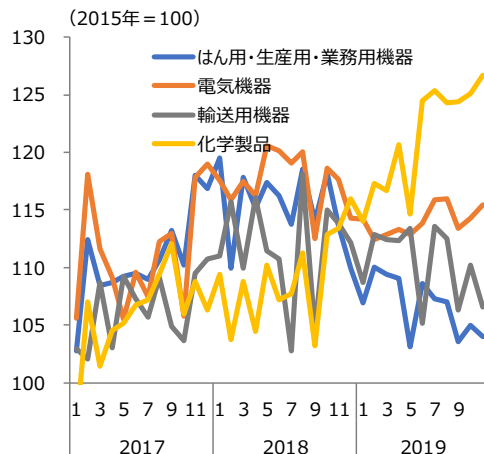


## 評価ポイント

## 今回の結果

- 19年11月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+0.4%、実質輸入は、前月比▲3.6%となった。貿易収支（季節調整値）は、▲608億円と、17カ月連続で赤字（図1）。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国別で見ると、中国・韓国・ASEAN向けが増加。中国（前月比+1.7%）は、はん用・生産用・業務用機械、輸送用機器が全体を押し上げた。韓国（同+1.4%）は、4カ月ぶりに増加に転じたが、日韓関係の影響等から減少傾向が継続している。一方、EU向けと米国向けは減少に転じた。米国（同▲1.9%）は米国向け輸出の中心である、はん用・生産用・業務用機械、輸送用機器が減少に転じ、全体を押し下げた（図2）。
- 半導体製造装置の実質輸出は、前年同月比+9.0%と5カ月ぶりの増加。ただし、前年同月の大幅減からの反動であり、水準は低い。韓国向けの減少が続いているが、中国向けは増加に転じた（図4）。世界の半導体需要は下げ止まり感がでてきており、日本からの輸出も下げ止まり感がみられる。

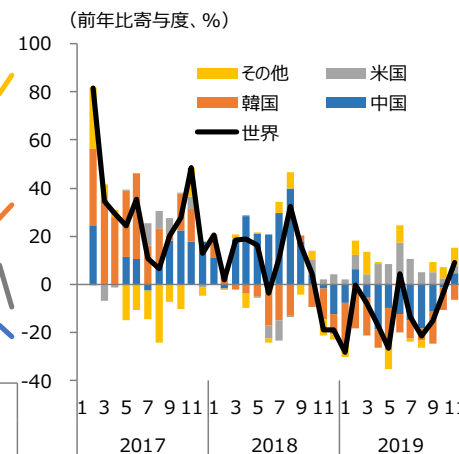
## 3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 半導体製造装置の実質輸出



## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、横ばい圏内で推移すると見込む。半導体関連需要の下げ止まり感が出てくるなか、米中貿易協議の第1段階の合意により、一段の関税引上げが回避される見通しが強まった。ただし、①既往の米中関税の影響顕在化、②海外経済の緩やかな減速、が輸出の重しとなり、輸出は低水準で推移するだろう。
- さらなる下振れリスク要因として、①米中・米欧貿易摩擦の一段の激化、②金融緩和下で拡大してきたリスク資産への資金流入の逆流、があり、これらが顕在化した場合、円高や海外経済の減速を通じて、輸出の下振れにつながる可能性がある。